

令和5年2月 報道機関との定例懇談会 要旨

□ 情報提供項目

職員の不祥事、新型コロナウイルスのワクチン接種、平庭高原スキー場まつりなどのイベントなどを市長からお知らせした。

□ 記者との質疑応答

- 記者 確認だが、施設内のトイレとあるが、男性トイレ、女性トイレどちらか
市 現時点では、確かな情報はわからない。総務課の聞き取りの中でトイレというだけの確認である。
- 記者 盗撮をしたことに関して認めているということであったが、なぜ盗撮したのかという理由を聞いているのか。
市 動機等については今後捜査の中で明らかになると思う。聞き取りの中ではそこまでの確認は取れていない。捜査も行うと伺っているので、その点についてはご理解いただきたい。
- 記者 事情聴取はいつ頃終わる予定か。
市 その点についても不明である。
- 記者 終わった時点で処分ということか。
市 その予定である。
- 記者 30代男性の年齢は何歳になるか。
市 市の公表に関する基準に伴い公表は差し控えていただきたい。
- 記者 30日の行為を認めたということで良いか。31日に本人から誰に報告があったのか
市 そのとおりである。報告を受けたのは職場の上司である、課長と係長である。
- 記者 総務課の担当が聞き取りを行ったという理解で良いか。この時は、何を確認したのか。
市 どのようなことで事情聴取を受けたのか、事実関係を確認した。
- 記者 今後聞き取りをする予定はあるのか。
市 今のところは予定はない。警察の捜査の方が優先される。必要に応じては行う可能性はある。
- 記者 本人からの報告は、直接職場に来て報告したということか。
市 そのとおりである。
- 記者 久慈警察署では臨場したということだが、この表現だと以前にも同様の行為が施設であり、久慈署で警戒をしていたと受け取れるが、その状況は市は把握しているのか。
市 どのような理由で久慈警察署が臨場したのかは、把握していない。
- 記者 照会をしていないということか。
市 照会をしたが、そこまでは教えていただけなかった。
- 記者 1月31日以前について同様な行為や画像を持っているなどの聞き取りは行っているのか
市 本人からは、今までそのような行為をしたことがないと聞いている。
- 記者 トイレの男女は、市の方で公表しないということか、確認していないということか。
市 その部分は聞き取りをしていないということである。

記者 カメラを設置した後に、その場ですぐに署員に声を掛けられたのか。

市 本人が、設置した直後ではなく、ある程度の時間をおいてから警察署員がきたと聞いている。久慈警察署が臨場した経緯は、市は把握していない。

記者 盗撮行為をしたことについて、本人から何かコメントはあったのか。

市 本人は反省していた。

記者 署員に声を掛けられたのは時間を置いてからということであったが、被害者はいない、という認識で良いか。

市 設置した事実は本人も話していたが、それに何か映っていたのかどうかは確認できていない。警察で捜査しているものと思われる。

記者 事情聴取は何の容疑で事情聴取を受けたのか。

市 軽犯罪法違反と建造物侵入罪の容疑で捜査を受けていると、本人から聞いている。

記者 3月11日の復興記念式典は、昨年から比べて規模はどのようになるか。

市 元の規模に戻したいと考えている。現在200人前後になると考えている。

記者 震災から12年、沿岸では自治体主体の記念式典を取りやめているところもあるが、どのように開催したいと考えているか。

市 日本海溝千島海溝を震源とする大津波の話が国と県からきている。市は県内では最大の被害が出るのではないかとわれている。3.11は毎年開催し次に備える心構えはしっかりしなければいけない。任期中は毎年開催してみんなの結束を高めていきたい。式典の内容はどのようになるか。

記者 基本的には前と同じような内容になると思う。自主防災組織の認定団体への交付式を調整中である。

市 国の式典はないので、市独自の開催となる。

記者 復興記念式典という名称は、以前からか。

市 当初からこの名称である。

記者 27日の浮体式洋上風力発電の検討委員会はどのような内容になるか。

市 第6回となるが今年度の最終となる。振り返り、進捗状況、来年度の予定、大きくこの3項目で予定している。来年度の予定は詳細については詰めているところである。

記者 おおまかなところで、来年度どのような調査や想定を教えてください。

市 陸上の風況調査は年間を通して行っているもので、秋ぐらいまで継続になる。加えて検討委員会で課題として整理されたもののうち、来年度できそうなものを進めている。例えば、水温の調査を行っているか、温暖化によって温度の変動があるか、漁獲の魚種に影響が及ぼしているのかなどの調査を継続して実施する可能性があるが、まだ決定ではない。

市 避難想定区域の避難方法について、市として車避難、高齢者避難について現状について教えてください。

記者 車避難については、原則徒歩でと話をさせていただいている。発生時、道路状況など不透明であるので、原則徒歩でお願いをしている。ただ、津波からの避難は、早期避難が非常に重要だと捉えている。現在策定中の津波避難計画や今後津波検討委員会の方で想定される様々な状況を踏まえ検討していく必要があると考えている。

市 高齢化の時代でもある。家族がいない高齢者だけの世帯など一律の禁止は難しいと思う。先日ある町内会の人と話をしたが、一方通行などのルールを決めてくれ、車の交通

整理をしてほしい、などの声もあるがルールを決めて本番に冷静でいられるとも限らない。1台トラブルが起きた時も問題である。一律に市で判断できるものではない。自主防災組織や町内会で話をしていかなければ解決できない。一人の犠牲も出さないために、自分の地域ではどのように対処すべきか話し合う必要がある。

記者 最終的には、地域や施設それぞれの課題ということか。

市 丸投げをする気はない。市も入って進める。海からの距離、避難場所など、状況によってかなり違ってくると思う。地域みんな考えていかなければならない。

記者 検討委員会の2回目以降のスケジュールを教えてください。

市 第2回の検討委員会は20日市役所で開催する。協議内容な調整中である。津波からの避難対策や津波避難計画の進捗状況になろうかと考えている。

記者 津波避難計画は8月で変わらないか

市 そのとおりである